



蚊が媒介する 感染症(デング熱)にご用心!

昨年から関東を中心に、蚊が媒介する感染症(デング熱)の発症が報告されています。蚊の活動が活発になる時期には注意が必要です。

デング熱とは?

感染経路 デング熱の原因となるデングウイルスは、デング熱に感染した人の血を吸った蚊の体内で増え、その蚊がまた他の人の血を吸うことで感染を広げていきます。人(患者)⇒蚊⇒人という経路で感染し、**人から人へは感染しません**。デング熱を媒介する蚊は、ヒトスジシマカです。

症 状 感染してもすべての人に症状が出るわけではありませんが、発熱や関節の痛み、目の奥が痛くなるなどといった症状が1週間から2週間ほど続きます。まれに発熱後、ショックや出血傾向など重症になることがあります。特に流行地域で蚊に刺された後に症状が出た場合には、なるべく早く医療機関を受診しましょう。

予防するには **蚊に刺されない、蚊を発生させないようにすることが重要です。**

- 外出の際には長袖、長ズボンを着用するなど肌の露出を控えましょう
- 虫よけ剤や蚊取り線香を利用しましょう
- 蚊の幼虫の発生源となる水たまりを作らないようにしましょう

■ 問合せ 丹南健康福祉センター Tel 51 - 0034
保健福祉課 ☎ 47 - 8007

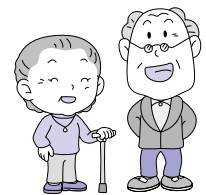


ヒトスジシマカ
(提供: 国立感染症研究所)



地域包括支援センターです

■ 問合せ 地域包括支援センター ☎ 47-8009
地域包括サブセンター(今庄) ☎ 45-1170
地域包括サブセンター(河野) ☎ 48-2260



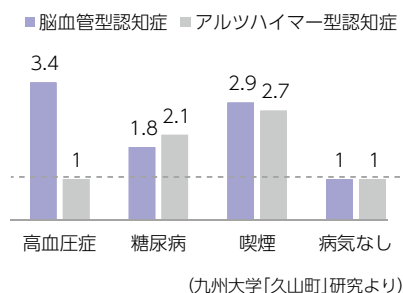
認知症あれこれ Q&A その2「生活習慣病と認知症」

Q 高血圧等の生活習慣病があると認知症になりやすい?

A 食べ過ぎや飲み過ぎ、運動不足、喫煙などの生活習慣から起こる病気を生活習慣病と言います。代表的なものとして高血圧や糖尿病、脂質異常等があります。生活習慣病は、認知症と大きく関連している事も分かってきました。ある調査では、病気が無い人と比べて、高血圧症は脳血管性認知症のリスクが約3倍、糖尿病はアルツハイマー型認知症のリスクが約2倍、喫煙はともに2倍以上の発症リスクがあるという事がわかりました。逆に、禁煙や生活習慣病の治療は認知機能低下の進行を抑制するというデータもあります。

以上のことから、生活習慣病にならないよう、生活を見直し、病気になったとしても、確実に治療をする事が認知症の予防に繋がると考えられます。

【認知症発症リスク】



【生活習慣病を管理(治療)したときの効果】

